

2022年度 特養なごみ 事業計画書

1. 収支（予算）

- ・収入は定員で上限が固定されているので、収入の安定化を図るために、入居者の長期入院時のショートステイ転用で空床活用を図り、同時に早期退院調整を実施していく。またご逝去等による空床を最小限に抑える為に、事前面談を行い、1週間以内の新入居者を入居できるように、前年度同様にアプローチしていく。
- ・日用品の購入をニックと入居者の間で行うこと（サブスクリプション方式で契約）により、入居者の使用する日用品等（タオル類、口腔ケア備品類、個別で使用されるおしり拭きなど）も納品されることにより、備品関連の経費削減に繋がる。
- ・主な支出として、各ユニット台所の排水管洗浄（30万）・各ユニットのしつらい費（15万）・卓上の食器乾燥機3台（6万）認知症実践者研修・全国ユニットケアセミナー・喀痰吸引2号研修・ユニットリーダー研修・宅老連続研修などの外部研修費予算（研修費50万）

2. 職員（育成・研修など）

- ・外国人職員が介護の学校を卒業することにより、多数常勤雇用になる為、他ユニットの現場指導が必要。目標としては1ヵ月で1ユニットの全勤務の指導を確実に行っていき、7月には夜勤の指導ができるように取り組んでいく。
- ・自主的に発言や行動が出来る職員、特に中堅職員の育成は必須と考えられる。今年度も「もとやん会議」を継続し、実践を繰り返すことで一人ひとりの職員が自律し、自ら動ける職員の育成を目指す。

3. 事業内容（企画）及び年間事業計画（予定）

月	内容	月	内容
4月	・造幣局・各ユニット花見・感謝祭 ・全体研修「各ユニット事業計画」	10月	・個別外出企画② ・全体研修「身体拘束・虐待防止」
5月	・母の日・ツツジ見学 ・全体研修「チームビルディング」	11月	・秋の遠足 ・全体研修「感染症」
6月	・父の日・住吉大社のお田植 ・全体研修「アンガーマネジメント」	12月	・忘年会・家族会 ・全体研修「食中毒」
7月	・個別外出企画① ・全体研修「認知症理解」	1月	・初詣 ・全体研修「リスクマネジメント」
8月	・納涼祭（花火大会） ・全体研修「中堅職員実践報告会」	2月	・我孫子観音 ・全体研修「新職実践報告会」
9月	・敬老の日 ・全体研修「接遇」	3月	・ふらっと楽しむ住吉 ・全体研修「年度の振り返り」

2022年度 特養なごみ短期入所 事業計画書

1. 収支（予算）

- ・入居の入院者発生時の空床を、積極的に活用した事業運営を図る。
- ・各事業者からの緊急ケースを積極的に受け入れ、ショート利用中に身体の改善を図り、地域の方がいつまでも在宅生活の継続が出来ることで、ご本人の暮らしを支えられる短期入所の在り方を作る。

2022年度 なごみデイサービス(通所介護) 事業計画書

1. 収支（予算）

- ・平均稼働率 90%を目指し、予算達成することを目標。

2. 職員（育成・研修など）

- ・なごみデイサービスでの取り組みを定期的に発信していく。利用者アンケートより、感染症対策などデイでの取り組みが分かりにくいというご意見を頂いたことから、感染症対策はじめ、デイでの取り組みを定期的に発信していく。

- ・部門内研修の実施

内部研修を通して個別支援を深め、実践に結び付けていくことを目標とする。

【個別援助計画書の作成（展開）と実践】

自部門の現状分析を通して課題抽出を行い、課題解決に向けた計画（研修）を作成・実践、課題解消を図るとともにスキルアップを図っていく。

3. 事業内容（おもな企画）

- ・コロナの状況にもよるが、地域交流を目的としたデイ発信の取組…デイのご利用者とは地域住民の交流、なごみデイサービスのファンを広める。企画案：将棋、オセロ倶楽部の再開・なごみデイ料理教室・手芸教室・なごみデイバザー等

年間事業計画（予定）

月	内容	月	内容
4月	お花見 デイ全大会議	10月	秋の遠足、品質向上月間 デイ全体会議
5月	母の日、端午の節句、しょうぶ 湯、粗大ごみ回収	11月	秋の遠足、品質向上月間、冬 期人事考課
6月	父の日、保育所交流会、夏季人 事考課 デイ全体会議	12月	クリスマス会、ゆず湯 デイ全体会議 年末入浴

7月	七夕まつり、流しそうめん、防災訓練	1月	新年会
8月	納涼祭 デイ全体会議	2月	節分 浴室機器メンテナンス（オイル交換） デイ全体会議
9月	敬老会	3月	ひな祭り 防災訓練

2022年度 なごみヘルパーステーション（訪問介護）事業計画書

1. 収支（予算）

- ・収入は前年度実績より1000万近くのダウンとなっています。
- ・支出では年度内に災害時用の発電機、災害時用備蓄品購入
ICT導入の為予算建てするが補助金申請の許可下りず来年度以降に変更

2. 職員（育成・研修など）

法人内研修・サービス提供責任者研修

3. 事業内容（おもな企画）

ヘルパー対象の学習会

年間事業計画（予定）

月	内容		
毎月	学習会		
	懇親会		
	お疲れさん会		

2022年度 なごみケアプランセンター（居宅介護支援）事業計画書

1. 収支（予算）

- ・収入は2000万円：事業所加算Ⅱ継続（1名あたり35名以上40ケース未満目標）
- ※特定事業所加算Ⅱ算定要件（項目9）介護支援専門員1人（常勤換算）の利用者数（介護予防含む）が40名未満

2. 職員（育成・研修など）

▼なごみの顔となってくれる職員の育成

- ・部内ミーティング強化＋伝達研修（外部研修に参加した人が部内で共有し話し合う）
- ・地域の方と関われる場への積極的な参加（ゾーン会議など）
- ・衛生（管理）研修の参加や、感染症対策の実施と継続
- ・部署内、部署間での学習会の実施

▼ケース状況や、支援の深さに応じた担当者数の調整を図る。

マネジメントの質的向上・維持を図る為、又、個々の職員が利用者や支援者間と共に、やりがいや生きがいを感じた支援に結びつく実践を紡ぎだしていけるよう、個の負担感の解消やメンタルケアにも力をいれていきたい。

3. 事業内容（おもな企画）

- ・住吉中学校区エリアへの積極的な受入。
迅速、丁寧な関りを深め地域の相談窓口を目指す（利用者アンケートの取組）
- ・ZOOMを活用しての勉強会や交流会の開催や参加。
- ・なごみ内での部署間交流を図っていきたい。

年間事業計画（予定）

月	内容	月	内容
4月	なごみーていんぐ	10月	なごみーていんぐ・品質向上月間
5月	なごみーていんぐ・粗大ごみ回収	11月	なごみーていんぐ・品質向上月間・住吉区総合防災訓練
6月	なごみーていんぐ	12月	なごみーていんぐ
7月	なごみーていんぐ・防災訓練	1月	なごみーていんぐ
8月	なごみーていんぐ	2月	なごみーていんぐ
9月	なごみーていんぐ	3月	なごみーていんぐ

2022年度 小規模多機能型居宅介護きずな 事業計画書

1. 収支（予算）7200万

登録は25名上限いっぱいのスタート予定である。継続的に稼働率の安定を目指していく。支出は、キッチン冷房器具設置 60万円 業務用エアコン掃除 10万円 防災関連 10万円

2. 職員（育成・研修など）

2024年より無資格者への認知症介護基礎研修受講が義務化される。2022～23年度に分け、該当者の研修受講の実施調整を進めていく。また、科学的根拠に基づいた介護（LIFE）の登録完了に伴い、4月からの本格的導入を行っていく。分担について、これまで以上に経験値を増幅出来る分担割を行っていく。

2022年度より全職員で決め、きずな職員が大切にしている根柢の部分を示すきずなのスローガンを決定した。

『●One for all All for one』

【自分はチームの為に責任を持って、精一杯自分の役割を果たす。全員で成し遂げる為に、一人一人が全力で役割を果たす。その為に・・・いつも笑顔を忘れないきずなを目指す!!!】

職員と職員が支え支えられつつ、歩みを共に、一段一段成長の階段を昇っていきます。時に休憩を！引き続ききずなを知って頂く取組みの継続を行いエリアの拡充を同時に実施していく。新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、ご利用者においても様々な生活行動に変化が起きている。その中でも変化しつつ、ご利用者にとって生活の活力となる楽しみを持つ事が出来、これまで同様「最期の時まで住み慣れた地域で暮らし続けたい」に伴走できる様に、更なるチーム力の向上を目指していきたい。

3. 事業内容（おもな企画）

新型コロナの状況によっては、予定の変更はあると考える。やり方を工夫したり、可能な限り楽しい【時 場 関係】の捻出を行っていきたい。誕生日企画については、昨年度も好評の声 素敵な笑顔を沢山頂いた。継続して行っていく。

年間事業計画（予定）

月	内容	月	内容
4月	さくらまつり	10月	秋の外出、きずなバザー
5月	きずな15周年、つつじ鑑賞	12月	忘年会
7月	保育所交流会	1月	住吉小学校交流会
8月	サマーカーニバル	2月	節分、あびこ観音お参り

※【誕生日祝い あなたの願いを叶えます】随時実施

2022年度 住吉区北地域包括支援センター 事業計画書

1. 職員（育成・研修など）

圏域内の相談職（ケアマネ）や介護保険事業所対象の研修を実施し、専門職のスキルアップを図る。

2. 事業内容（おもな企画）

「従来の方法にとらわれず、多様な世代の地域住民が高齢者の暮らしについての情報を得ることができるよう情報発信を行う。」を大目標とし、幅広い世代の地域住民が、高齢期の暮らしに必要な情報を獲得できる仕組みを作る。オンラインやSNS、チラシの配布等、様々な形態での企画や研修、啓発活動を行う。

①本人・家族支援

- ・本人や家族が必要な情報を必要な時に獲得できるようにすることで、情報社会からの孤立を予防する。
- ・本人や家族が高齢期の暮らしについて考え、想像し、準備する機会をもつことができる。（活動報告会や出前講座、啓発活動）
- ・住民が見守り見守られ、介護予防に取り組むことができるつどいの場の運営や住民の運営を支援する。（介護予防教室など）
- ・生活支援コーディネーターと協働し、新たな社会資源の創出を検討する。

②地域連携支援

- ・コロナで不活発となった地域活動について、地域住民と共に新しいあり方を考え、必要な支援を模索する。
- ・対応が必要なケースの早期発見早期対応のため、行政、地域、介護保険事業者、金融機関など関係者と連携し、介入のタイミングをはかる。（すみきち新聞の発行、定例会議への出席）
- ・小地域や小人数単位での活動報告会や住民交流会を実施し、総合相談の現況や当包括の実践を発信する。（出前講座、出張相談会、地域のサロンやふれあい喫茶への定例参加等。災害やコロナ感染症等非常事態で喫茶やサロンが休止中の場合でも情報提供や情報収集を行う）

③支援者連携支援（レゾチーム、在宅医療介護連携相談室、生活支援コーディネーター含む）

- ・8050世帯やヤングケアラーなど多様な世帯支援ができるネットワークを作る。
- ・支援者の多職種連携、他職種理解を促し、適宜必要な支援機関と連携し、制度が活用できるようになる。（なごみーていんぐ、専門職団体との合同研修会の企画、居宅部会など専門職団体の会議への参加など）

④行政への働きかけ

- ・多職種連携、他職種理解の必要性をより理解していただき、適時適切に協働できる関係性

を構築する。(地域ケア会議や活動報告会等への参加要請)

年間事業計画 (予定)

月	内容	年 4 回	振り返りの地域ケア会議
年 3 回	北包括版 広報誌発行	6 月～	家族介護支援事業
年 3 回	圏域内の専門職の研修	10 月頃	老いと向き合う講演会
年 3 回	活動報告会	随時	出張相談会・出前講座
年 1 回	ケアマネと民生委員との交流会	随時	小中学校向け福祉教育
月 2 回	健康教室	随時	圏域内事業所への研修や交流会
月 1 回	介護福祉健康相談会 (東粉浜・他)	随時	集い場づくり (オレンジカフェなど)

2022 年度 住吉区北地域包括支援センター(介護予防支援) 事業計画書

1. 収支 (予算)

- ・人員配置の変更により、直プランが減少し、一部委託率が上昇し収入は微減か現状維持となる見込み。2021 年度より、三職種包括担当者 5 名で一人あたり 20 件を上限、地域包括ケア担当とケアプランナーを兼務する 2 名は、一人あたり 25 件をめどにケアプランを担当。一部委託の件数が増加するが、直プランが減少するため。

2. 職員 (育成・研修など)

- ・圏域内や一部委託先のケアマネジャー対象にケアプラン研修を企画開催予定。
- ・状況に応じてオンラインを併用するなど、コロナ感染拡大状況の影響を受けないよう企画する。その他、委託元の大阪市からの必須研修、介護保険事業者連絡会や認知症関連事業、在宅医療介護連携事業、市老連などの企画する研修などへ参加予定。

3. 事業内容 (おもな企画)

包括事業と動きをあわせて、圏域内のケアマネジャーのスキルアップや横のつながり作りを行う。

年間事業計画 (予定)

月	内容		
年 3 回	ケアプラン研修		

2022年度 大領地域の家であい(小規模多機能型居宅介護) 事業計画書

1. 収支【支出項目特記事項】

- ・洗濯機2台(約20万円)
- ・書類保管用の物置(GHと共同購入)
- ・防災備蓄品(館内全部署)

※開設10年に伴い様々な備品の老朽化がみられるため

2. 職員(育成・研修など)

法人内研修を主としながら、日頃の実践で「なぜ」「何のためにやっているのか」という確認ができるきっかけ作りをしていきたい。

基本的な知識、技術の向上につながるよう、簡単な勉強会を2回/年ぐらいの割合で実施したい。⇒日程調整が可能なら地域密着型サービス合同で。

2022年度は改めて小規模多機能の強みを活かしていけるよう、事業所として何を指してやっていきたいか、を明確にしていきたい。

3. 事業内容(おもな企画)

引き続き、新型コロナの感染状況によっては様々なイベントの中止もあり得るが、イベントなどは利用者さんも楽しみにしておられるので、必要な感染対策をしながら可能な限り実施していきたい。

年間事業計画(予定)

月	内容	8月	大領小サマーカーニバル
4月	花見	9月	敬老の日
5月	母の日・開設記念	10月	ハロウィン
6月	父の日	12月	忘年会・利用者アンケート
7月	七夕	1月	お正月

2022年度 大領地域の家であい(認知症対応型グループホーム) 事業計画書

1. 収支(予算)

・収入では2021年度と同じベースで設定。前年度開始した共用デイサービスによる収入が月に5万円~7万円前後。今の人員体制であればそのまま受け入れが可能なため、支出なしで収入を上げることが可能。また、空室利用者や緊急ニーズに備え、ショートステイの申請も進めていく。支出は※開設10年に伴い様々な備品の老朽化がみられるため

2. 職員(育成・研修など)

現場状況により、委員会活動や法人内研修へ参加が難しいことも多かったので、時間調整など行い参加できるようにしていきたい。

法人内研修を主としながら、日頃の実践で「なぜ」「何のためにやっているのか」という確認ができるきっかけ作りをしていきたい。

基本的な知識、技術の向上につながるよう、簡単な勉強会を2回/年ぐらいの割合で実施したい。⇒日程調整が可能なら地域密着型サービス合同で。

3. 事業内容(おもな企画)

引き続き、新型コロナの感染状況によっては様々なイベントの中止もあり得るが、イベントなどは利用者さんも楽しみにしておられるので、必要な感染対策をしながら可能な限り実施していきたい。

年間事業計画(予定)

月	内容	8月	大領小サマーカーニバル
4月	花見	9月	敬老の日
5月	母の日・開設記念	10月	ハロウィン
6月	父の日	12月	忘年会・利用者アンケート
7月	七夕	1月	お正月